

常任委員会・特別委員会 行政視察レポート

総務常任委員会

平成23年11月9日～11日

産業建設常任委員会

平成23年11月8日～10日

【和歌山県御坊（ごぼう）市】

日高港新エネルギーパークは、御防市と関西電力の共同運営で、市民が公園を訪れ、新エネルギー（太陽光発電、風力発電、バイオマス発電）について、学んで体験できる施設です。その中で、日本周辺の海底に眠っている新エネルギーとして注目されている「メタンハイドレード」の紹介がありました。

また、平成21年3月に「自然エネルギー等調査特別委員会」を6人の委員構成で設置し、将来の自然エネルギーを利用した基幹産業の育成や観光



日高港新エネルギーパークの説明を受ける

誘致について取り組んでいました。福島第一原発事故により、新エネルギーへの取り組みは、今後ますます注目を浴びると考えます。

本市では、本年度から市単独の個人住宅用ソーラーの補助を開始し好評であり、さらなる推進を行うべきと考えます。

【兵庫県神戸市】

神戸市では、「デザイン都市・神戸」の推進のため、昭和53年に「都市・景観条例」を制定しています。

市民共有の財産ともいえる歴史的建築物が減少している中で、建物単体としての価値を保存することはもとより、市民の生活や活動の場として、実際に生かし、保存に取り組んでいました。

広大な面積の本市においては、地域の風土に根ざした特色をまちづくりを生かす必要があると感じました。そのためには、まず現存の町並みや自然景観の洗い出しを提言すべきと痛感しました。

【長野県中野市】

中野市では、前市長が平成16年に市の基幹産業である農業を活性化するため、行政が積極的な農産物の販売にかかわる「売れる農業推進室」を掲げて当選しました。このことから、以来、同市では売れる農業を積極的に推進しています。

多様なマーケティングを駆使し、地産地消をベースに、都市と農村の交流を進め、基幹産業である農業に活気を取り戻すことで、間接的に他産業にも波及効果をもたらす結果として、地域経済全体の活性化につなげて



景観整備が進む小布施町の町並みを視察

います。

今後、国内での販路拡大のほか、近隣市町村と連携して海外への輸出も検討するなど、T P P 問題が渦巻く中、農業と地域活性化の好例として注目される事例と言えらると思います。

【長野県小布施町】

長野県北部に位置する小布施町は、昭和51年に「葛飾北斎美術館」オープン以降、人口の何倍もの観光客が同町を訪れ、活況を呈しています。

以来、官民一体となつて、町の景観整備（町並み、修景事業）を進めており、町中が統一のとれた美術館のような清潔で居心地の良い、落ち着いた空間を醸し出しています。

「修景」とは、小布施町が作った造語ということ、町並みを新しいものにつくり替えるのではなく、歴史的景観等に配慮しながらリフォームするということです。

「家の中は自分のもの、外は皆のもの」という景

観づくりの哲学を官民ともにも共有し徹底され、個人宅の庭園も開放されるなど、町全体の一体感と意気込みを感じさせてくれました。

【長野県東御（とうみ）市】

東御市は、平成16年「東部町」と「北御牧村」が合併して誕生した新市ですが、年間を通じて日照時間が長く、年間降水量が少なく、ブドウづくりに適した気候です。その特産品であるブドウを生かして、ワインづくりを進めようと若者が立ち上がり、行政を動かして、ワイン特区を取得しています。

まちづくりの基本は、地域の特性を生かし、小さな可能性でも大きく広げる情熱とひたむきさ、それを支える官民の団結力だと思っています。

明確な目標設定とこだわり、支援が実を結ぶ日も近いと感じさせる事例と言えるでしょう。

文教常任委員会

平成23年11月9日～11日

【奈良県奈良市】

小中学校で「世界遺産」を取り入れた総合教育を行っている。子どもたちには世界遺産についての知識を詰め込むのではなく、世界遺産を「学び」のスタート地点、いわゆるきっかけにして、自分たちが住んでいるまちに誇りを持つことを目指しています。

説明の中で「風習や芸能など文化遺産は、無関心が続くと忘れ去られ最後は失われてしまう」との見方が示されました。

本市においても、遺産登録された早池峰神楽をもつことから、郷土の文



和文化教育についての事前説明を受ける（島田市立第四小学校）

効果の一つとして、あいさつの際に、立ち止まって会釈をする子どもが出てきたということ、す。相手への「間合い」「推しはかる」など、人とかかわりの姿勢に変化が表れてきたとのこと。昨今は「こころ」を大切にしたい教育の必要性が高まっています。



「健康寿命延伸都市松本」の説明を受ける

花巻市は、伝統芸能を含め和文庫であり、子どもたちに「こころ」の教育をする上では申し分のない環境を備えています。世界遺産を生かした教育と連動させながら取り組むべきものと考えます。

福祉常任委員会

平成23年10月31日～11月2日

【新潟県三条市】

三条市は、市民の子育てをめぐるさまざまな悩みに対して、福祉や教育など各セクションが支援事業を行っています。

乳幼児から就労自立に至るまで切れ目なく一貫して個に応じた必要な支援を総合的に受けられるようにするため、子育て支援課が情報を可能な限り集約一元化し、関係組織機関と連携して支援するシステムであり、また、総合サポート会議の中で虐待防止、問題行動、障がい、若者支援等部会が連携して活動し、本人や保護者を支援していました。

【長野県松本市】

松本市は、超少子高齢型人口減少社会の進展により医療費や社会保障費の増加などから、市の総合計画に「健康寿命延伸都市松本」を都市像として掲げています。

量から質へと発想転換し、市民一人一人の命と暮らしを大切に、いきいきと暮らせるまちづくりに向けて、例えば医療や介護が必要となつても安心して心豊かに生活できるようにと、病气予防、介護予防健康管理から危機管理まで市を挙げて戦略的に取り組んでいます。

部・課を越えた連携や協同を進めることが福祉の充実を高めると感じました。現在、本市で進められている総合福祉計画では、その点を意識した策定が必要と思いました。

はなまき市議会だより編集委員会

平成23年11月21日

【北上市】

市議会だよりの編集・作成に先進的な取り組みを行っている北上市議会広報広聴特別委員会を視察研修しました。

議会改革を議会基本条例制定よりも先行して実施している北上市議会では、市議会だよりを議会の改革の一環として位置付けています。

特徴としては、表紙写真の選定、紙面の割り付け、原稿作成について、正副委員長を中心として各委員が手づくりで編集しており、そのテーマは市民に「読みたい」と思わせ



北上市議会広報広聴特別委員会を視察

る紙面づくりでした。委員会構成は、各常任委員会の副委員長4人、各会派から5人の計9人。その編集過程は、定例会前に第1回委員会、定例会終了後に第2回、第3回委員会を開いています。校正作業は、各委員が自宅で行い、正副委員長と事務局が最終校正を行っている。また、一般質問については、質問者が答弁原稿、写真、キャプションと、すべて行っている点に、本市議会だよりとの相違点があります。北上市議会では、各定例会での論点や注目の議案などについて解説する「視点・論点」というコーナーを設けており、非常にわかりやすいと感じました。今後、本市議会だよりにも取り入れていけるよう参考にしたいと考えています。